

朝日連峰 三面川 未沢川

(敗退)

2008年8月13日～15日

メンバー:L松田、三井、山本、橋立(記)

今回は悪天候のため、予定の半分も進めず敗退となってしまった。しかし、今回は沢における悪天候時の行動、沢での停滞など学ぶことは多かった。沢をのぼりきった満足感はないが、大雨の中、濁流の沢を無事に下れたことに満足している。

8月12日(月)

21:00頃、橋本を発つ。天気予報によると、8月14日頃から、東北に前線が停滞し、天気が崩れるらしい。山形へ向かう途中のサービスエリアで計画を練り直し、この時点で当初計画していた岩井又沢の下降は諦め、未沢川を遡行し袖朝日山頂を経由して下山する計画に変更した。入渓地点も、未沢林道からではなく、荒川側の針生平に変更し、柴倉山を越えて未沢川に入渓することにした。夜の高速道路は順調に流れ、2時半頃、小国町の道の駅に到着し、飲食コーナーの軒先にマットを広げ、軽く飲んで就寝。

8月13日(火)晴れ

朝 5:30 頃に起床し、針生平に向かう。針生平からは、針生沢に沿って歩き、一つ目の枝沢をたどって、一つ目の二股の間の踏み跡から山に入る。所々踏み跡ははっきりせず、ぼうっとしていると見失ってしまうので注意が必要だ。みるみる日が高くなり、気温がどんどん上がっていく。登り始めて10分で水を浴びたように汗だくになり、ペースが落ちていく。

なんとか、1時間ほどで稜線に到着した。気持ちのよい涼やかな風が体を冷やしてくれる。そこからは、藪山の稜線上を軽いアップダウンを繰り返して柴倉山に到着。山頂から30分ほど下り、支流の芝倉沢に降り立つ。



なんとか、1時間ほどで稜線に到着した。気持ちのよい涼やかな風が体を冷やしてくれる。そこからは、藪山の稜線上を軽いアップダウンを繰り返して柴倉山に到着。山頂から30分ほど下り、支流の芝倉沢に降り立つ。水はぬるいが日照った体を冷やすには十分だ。しかし、容赦なくアブの大群が襲いかかってきて、ゆっくり涼む余裕もない。10分ほど沢を下れば未沢川の本流に到着する。雨が少ないせいが見たところ水量は少なめだ。未沢川本流出会いあたりは川幅も広く、朝日の沢という印象だ。しばらくは、巨岩帯や淵が出てくるが、これといった悪場もなく快調に遡行する。釣り人だろうか、先行者の新しい足跡がある。そのせいだろうか、全く魚の気配が感じられない。オオタテボリ沢の手前で竿を出してみるが、先行者の影響か、それとも日が高すぎるせい、毛ばりを流しても、ここぞというところで魚が出てくれない。仕方ないので諦めて先に進む。

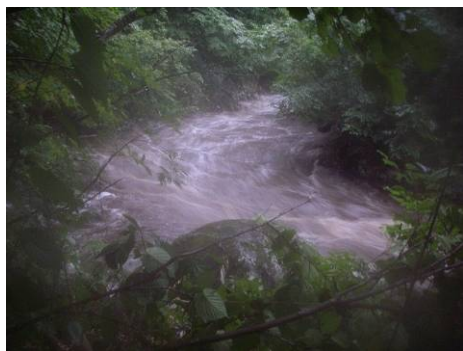


この先、ちょっとした滝や淵をいくつか通過する。ウデコエ沢(出合いは20mの滝)を過ぎ、滝を2つほど越えた辺りの川原を本日の泊場とする。結局この日は、特に厳しい滝の登りや高

巻きもなく行程を終えた。寝床を整え、巻きを集め、それから釣りに出掛けるが、すでにこの辺りはすでに魚止めを過ぎているのか、結局釣れなかった。日が沈むとアブに加えて、蚊が出てきた。防虫ネットをかぶり雨具を着て焚き火を囲んで、酒を飲みながらゆったりとした時間を過ごし、思い思いに寝床に着く。

8月14日(水)雨

朝 7 時に出発しようとザックを肩にかけた時、ちょうど雨が降り始めた。これが前線による雨だとすると、この先天気の回復を見込めない。しかしまだ増水するほどの雨ではなかったため先に進む。5m くの字滝を三井さんは、濡れて滑りそうな側壁のホールドをたどり登っていた。他のメンバーは左岸を巻く。それからさらに淵を巻いて懸垂で沢に下降。続く滝を右岸のルンゼ沿いに登り、ちょうど落ち口から 5、6m ほどの高さのところに、テント二張り分ほどの台地があり、「ビバークにいいねえ」と話していたところ、タイミングよく雨脚が激しくなり、そこで暫し雨宿りとする。しかし、雨は激しくなる一方で、沢はみるみるうちに増水していく。



激しい雷も鳴っている。雷雨は激しさを増す一方なので、台地の上にタープを張り、寒さをしのぐためさらにその下にツェルトを張り、本格的な雨宿りを決め込む。その後も天気は回復する様子もなく、結局昼を過ぎてしまった。もうこの時点でこの日の行動は諦める。話たり、食べたり、寝たりを繰り返し、時間が過ぎていく。雨脚は一旦弱まり、水かさも減ったが、それでも平水よりも数 10 センチ水かさが高く、濁りも取れていない。夜になってもまだ小雨が降って

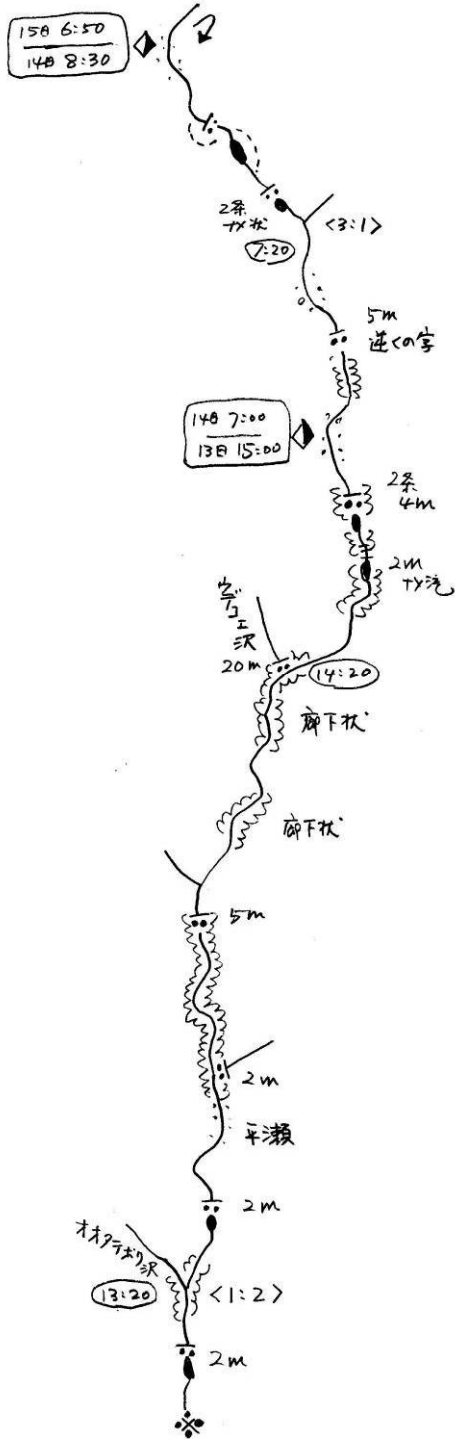
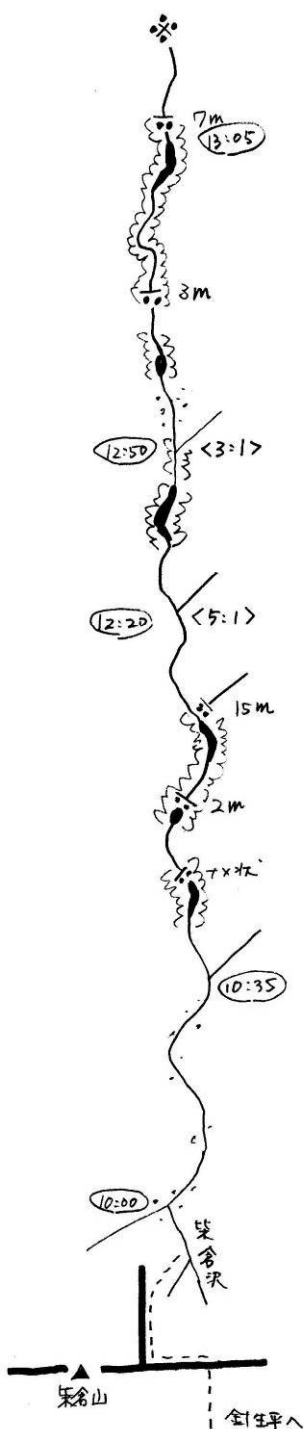
いたが、何とか雨を凌ぎながら焚き火を囲み食事を取ることが出来た。食事を済ませ酒を飲んでしばらくすると、また激しい雨となった。その夜、ラジオで聞いた天気予報によると、山形ではこの日だけで 1 ヶ月分の大雨が降ったとのことだった。こんな日に山にいるとはついていない。

8月15日(木)雨

昨夜から、下るべきか、上るべきかを論議してきたが、結局はこれから数日間天気の回復は見込めなさそうなので、登ってきた沢を下ることにした。ここまでの登りは難しい場所は皆無と言ってよかったが、増水したことで様子も難易度も一変していた。危うい渡渉を繰り返し、沢通しに下れないところは大きく巻く。両岸が切り立った場所では、なかなか沢に下ることができず、上へ上へと追いつけられる。山を越えウデコエ沢に下り、20m 滝の脇を懸垂で下り、本流に下りる。ここまで下るのに登りに要した時間の倍以上の時間を費やしている。今晚も沢でビバークか？不安がよぎる。ここからも、増水した流れを渡渉したり、滝や通過不可能な淵などを巻いたりしながらの、厳しい下りが続く。



昼すぎに、雨が上がり、時々弱弱しいが雲の隙間から日が差してきた。下流は、川幅も広がり、厳しい場所はほとんどなく無事に沢の出会いまで下る。15:00 頃に無事芝倉沢にたどりつき、そこから芝倉山を越えて、18:00 頃針生平に到着。天候に恵まれず残念な結果に終わったが、学ぶことの多い山行だった。



08年 8月13日 ~ 15日
 朝日連山 / 三面川・末沢川